

ネットワークアンケート ②8

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. 貴院に通院する糖尿病患者さんで、治療中断となる方はどれくらいいると実感していますか？

長期に及ぶ通院治療となる糖尿病は、自覚症状が表れにくいこともあり、治療中断者が多いと言われています。患者さん自身の事情もありますが、通院する医療機関との相性、不況の影響など、さまざまな理由があるようです。今回はその現状について伺いました。

[回答数：医療スタッフ85名(医師11、看護師33、准看護師2、管理栄養士19、栄養士1、臨床検査技師8、理学療法士1、薬剤師6、その他4。うち健康運動指導士1、日本糖尿病療養指導士31)、患者さんやその家族376名(病態/1型糖尿病144、2型糖尿病215、糖尿病境界型12、その他4、通院する医療機関/大学病院 57、国公立病院 28、糖尿病専門の診療所109、一般の診療所63、その他5)]

治療中断となる患者さんは約1割と回答された方が37%、約2割が22%、約3割が13%と、高い実感を持たれている方が多くいらっしゃることがわかりました。また、治療中断してしまう方のタイプとしては、「男性」が圧倒的で、「働き盛り世代」、「一人暮らし・独身」の方、「経済的に恵まれていない方」が多いという傾向があるようです。中断のリスク等の情報提供については、半数弱が「常に行っている」とのことでしたが、中断によって血糖コントロールの悪化や合併症の進行を招くことを患者さんは「知らない方が多いと思う」と回答した方は37%おられました。

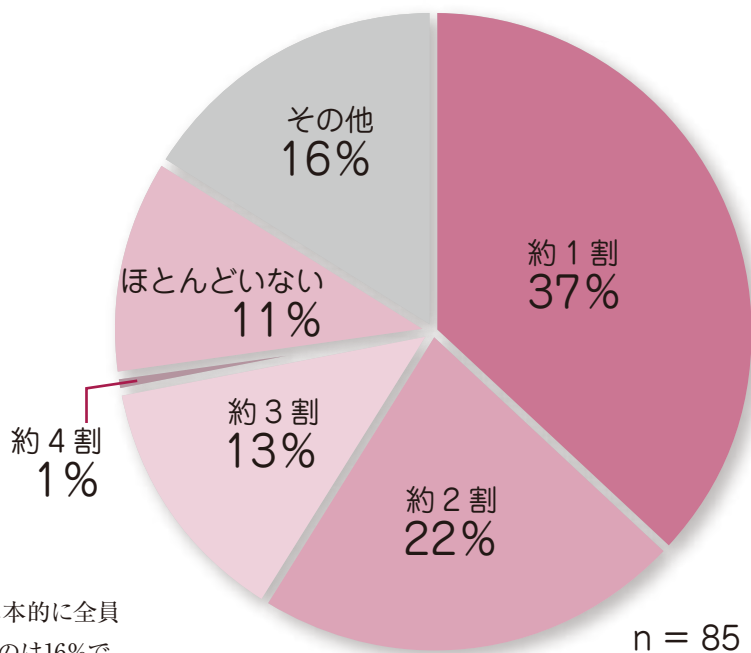
通院をやめてしまった方への受診勧奨に

Q. 患者さんの治療中断の理由は、どのような事柄が多いと感じますか？ (複数回答可 n=85)

時間をとるのが難しい、
仕事を休めない……………88%
医療費の負担……………69%
治療をやめても変わらない……………65%
予約日をキャンセルして行きづらくなった……………45%
診察の待ち時間が長い……………41%
血糖コントロールがうまくいかない……………32%

ついては、「基本的に全員に行っている」のは16%で、44%が「積極的に行っていない」、35%は「必要な患者さんのみ」とのことです。中断者のフォローは難しい現状があるようです。自由記述では、「患者個々の経済面を考慮しながら医療を提供する必要がある」「職がない時代で1型患者さんは気の毒」「医療機関は治療継続できる環境作りを検討すべき。病院が遠ければ近い病院を紹介、薬が高ければジェネリックに変更、足が痛くて運動ができなければリハビリを勧め、そこで運動を行う等、具体的なアプローチが必要」といった意見がありました。

通院先が遠い、通うのが不便……………25%
治療が嫌になった……………24%
主治医や医療スタッフとの相性……………24%
引越しを機に……………12%
身体が不自由になり、通院が困難になった……………7%
納得いく説明・理解が得られなかった……………7%
その他……………4%



Q. 治療中断される患者さんは、どのようなタイプが多いですか？ (複数回答可 n=85)

【性別】
男性……………71%
女性……………11%

【年代】
若者(10~20代)……………20%
働き盛り世代(30代~定年)……………84%
高齢者(65歳以上)……………12%

【生活環境】
一人暮らし・独身……………64%
家族と同居(子供あり)……………5%
家族と同居(子供なし)……………8%

【治療内容】
薬物療法……………26%
食事・運動療法のみ……………54%
インスリン療法……………9%

【状態】
血糖コントロールが悪い方……………39%
血糖コントロールが良い方……………22%
合併症のない方……………28%

【その他】
楽観的な性格の方……………42%
経済的に恵まれていない方……………66%